



明日の拷問

高嶺格プロデュース展



・作品募集・

「自分が拷問されている場面」を想像して描いた平面作品をご応募ください。

秋田のオルタナティブスペース・ココラボラトリーでは、
現代美術家・高嶺格プロデュースによる展覧会『明日
の拷問』のための平面作品を募集します。応募作品の
中から、3つの特別賞および入選を選考し、入賞作品の

中から数点を選び、高嶺監修のもと、作品を実際に体験
する試みを行います。実演の様子はビデオに記録し、同
展覧会にて発表いたします。(生死に関わる／巨額の費用が掛かるなど、実体験
が難しいと思われる部分に関しては、擬似的な体験としてアレンジされる可能性があります)

・賞・

明日の拷問賞(1点) 賞金 10万円

明日の想像力賞(1点) 賞金 5万円

明日のリアリティ賞(1点) 賞金 5万円

鬼畜賞(20点程度)

※左記の入賞作品はすべて、ココラボラトリーで
行われる「明日の拷問」展(2015年11月11日～
11月23日)にて展示されます。

応募期間: 2015年7月10日(金)～2015年9月3日(木)〈当日必着〉

明日の拷問・募集要項・



「明日の拷問」展について 高嶺 格

前々から気になっていた拷問ですが、最近リアルに気になってきました。拷問は様々な国際条約で法的に禁止されています。しかし現実には行われているし、将来なくなるとも思えない。一歩間違えば自分だっていつか拷問されるかもしれない。それは無意識に心理的抑圧として、日々の言動に影響しているのではないか？

そんな思いから「明日の拷問」展を企画しました。自分が拷問されている姿を想像するのは実におそろしいことです。しかしここでは発想を逆転し、歴史上なかった、しかし将来見えるかもしれない拷問について想像を膨らませ、心の準備をしておくことで抑圧から解放される、そんなプロセスとなることを目指しています。

募集内容 「自分が拷問されている場面」を想像して描いた平面作品

審査基準 拷問としての斬新さ、オリジナリティを重視します。その他、リアリティ、描写力などから総合的に審査します。

賞について 応募作品の中から、3つの特別賞および入選を選考します。さらに入賞作品の中から数点を選び、高嶺監修のもと、作品を実際に体験する試みを行います。実演の様子はビデオに記録し、同展覧会にて発表いたします。

(生死に関わる／巨額の費用が掛かるなど、実体験が難しいと思われる部分に関しては、擬似的な体験としてアレンジされる可能性があります)

賞	明日の拷問賞(1点) 賞金 10万円	※左記の入賞作品はすべて、ココラボラトリーで
	明日の想像力賞(1点) 賞金 5万円	行われる「明日の拷問」展(2015年11月11日～
	明日のリアリティ賞(1点) 賞金 5万円	11月23日)にて展示されます。
	鬼畜賞(20点程度)	

応募期間 2015年7月10日(金)～2015年9月3日(木)(当日必着) 審査員 高嶺 格(美術作家／秋田公立美術大学准教授)

参加方法 提出物を下記提出先まで郵送、もしくは宅配便にて送付 ※送料はご負担ください。

提出物：

- 作品(平面作品に限ります。サイズはA2(420×594mm)以内としてください。縦横は問いません。)
 - ※クレヨン、色鉛筆、水彩、油彩、CGなど画材は自由。
 - ※既成のキャラクターなど著作権のあるモチーフを使用した作品は不可。
 - ※額装、パネル化は不可。
 - ※その他の公募展等に出品していない未発表作品のみ。
- 作品の背景、状況などについての詳細な説明(応募用紙に記述)
- 応募用紙(公式ホームページよりダウンロード)

参加資格

- 年齢・性別・国籍不問
(※未成年の方は保護者の了承を得てからご応募ください)
- 応募作品が各種媒体で紹介されることに同意いただける方
- 応募規約に同意いただける方

参加費 無し

結果発表 2015年9月中旬までに、入賞者に電話またはメールにて通知

展覧会 会期：2015年11月11日(水)～11月23日(月・祝) 場所：ココラボラトリー(秋田県秋田市大町3丁目1-12川反中央ビル1F)

著作権の扱いについて 応募作品の著作権は制作者に、実演ビデオの著作権は高嶺にそれぞれ帰属します。また入賞作品については、ココラボラトリーでの展示後に他会場で同様の展覧会が開かれる場合、参加にご協力いただけるようお願いいたします。

作品の返却 入落選に関わらず、応募いただいた作品は基本的に返却いたしません。返却を希望される方は応募用紙にその旨書き添えてください。着払いにて郵送いたします。

高嶺格プロフィール：1968年鹿児島生まれ、京都市立芸術大学・岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー卒。パフォーマンス、ビデオ、インスタレーションなど多彩な表現を世界各地で行っている。近年の主な個展に、イギリスを含む4つの美術館を巡回した回顧展「とおくてよくみえない」(2011)、震災以降の状況をダイレクトに扱った「高嶺格のクールジャパン」(水戸芸術館、2012)、視覚障害者に案内されながら巡る「てさぐる」(秋田県立美術館、2014)など。2013年、秋田公立美術大学准教授に就任。

【応募用紙ダウンロード <http://www.cocolab.net/gomon>】